

エコプロダクツ2008 記念シンポジウム
2008年12月11日

「グローバル時代、日本の課題は？」

黒川 清 <www.kiyoshikurokawa.com>
政策大学院大学教授

21世紀、人類の課題は19世紀、そして20世紀に花を咲かせた「科学と技術の進歩」の「思いがけない」結果への挑戦である。これからのグローバル世界の共通課題は、さらに進む「フラット化」と「人口爆発」である。いままでの社会と産業構造で人類がさらに成長することは難しい。価値観の大転換なしには20-30年で「戻れない点 Point of No Return」に到達するだろう。気候変動と温暖化、エネルギー、資源獲得の争い、水と食料等々。温暖化と適応、人の移動と争いはここかしこに顕在化する。誰もが影響されるグローバル時代である。

グローバル世界の中で日本の課題は何か。人類の生活と生存に不可欠のエネルギーは、木から100年ごとに石炭、さらに石油と進んだ。62年の「沈黙の春」、72年の「成長の限界」、87年の「持続可能な成長」、それから何が変わったか。70年代の石油危機から日本は何を学んだか。グローバル化がさらに進むこれから、どのような国家ビジョンを持ち、どのような国家になっていくとするのか。

産業構造も大転換期に来ている。国際政治パワーバランスの変化、金融崩壊から、経済の低迷等々、種々の問題はローカルであってもグローバルに広がる一つの世界。多くの課題を抱えて日本はどこへ向うのか、向かえばいいのか。グローバル世界を見据えた国家の行方を、この講演会のテーマに焦点を絞りつつ考える。

「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。'Historia Majistra Vitae' (Cicero 1BC)」